



動労千葉

86. 7. 10

No. 2291

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！

勝利への
唯一の道

体制築き 決起の現場 全国全職場の団結の鉄

動労千葉 七月、八月方針を確認

衆参同日選挙の自民「圧勝」をもって中曽根体制による国鉄国会での関連法案の強行成立や、国鉄当局の職場における反動攻撃の一層の強まりは必至の情勢の中で、七月末にも「十一月ダイ改」提案がなされようとしており、七、八月闘争への決起が決定的に重要となってきた。分割・民営化との闘いの主役は、国鉄労働者である。他力本願では勝てない。自らの力で闘ってこそ、勝利することができる。動労千葉は七月七日、第三二回拡大執行委員会を開催し、労働運動の原則をつらぬき、中曽根の攻撃と真っ向うから対決する「七、八月闘争について」次の通り確認した。

他力本願では勝てない

ダブル選挙での自民「圧勝」の情勢のもとで、七、八月闘争は、まさに、正念場の闘いとなった。夏季手当の差別支給、「多車種転換教育」「人材活用センター」攻撃など、国労・動労千葉の動揺を狙いながら、動労革マルを救済する策動がなされている。とりわけ「人材活用センター」は、選別の始まりであり、役員・活動家を職場から排除する攻撃である。

これらの攻撃の次に、一般組合員に対するマル生組織化―脱退の攻撃がくることは必至である。既に、非現業組合員への脱退策動を動労革マルと鉄労、当局が一体となって行っており、六月二十九日には、国鉄本社のコテコ入れで、マル生集会が強行された。

動労革マルは、綱領をかえ組織を解散し、管理者や鉄労などと新事業体の労働組合をつくらうなどと夢想しているが、運転職場は「二人に一人」の合理化、「十一月ダイ改」が近づくにつれ、動労内の矛盾が激化・噴出してきている。

また、国労中央は今日の国鉄攻撃がすべて国労の破壊にむけられていることがはつきりしているにもかかわらず、たまたかの方針を何ひとつ持たず、後退と屈服を重ねてきた。

しかし、われわれにとって重要なことは、国鉄決戦の正念場はこれからだ。全国の職場では孤立を強いられながらも、多くの仲間が必死のたたかいを続けている。中曽根・杉浦・松崎らも苦しい。国鉄労働者の決起をもっと恐れているのだ。

七・二〇全国鉄労働者集会の大成功をかちとり、七、八月闘争を総力でたたかひぬこう。

当面する取り組みについて

五月より開始した物販活動・全国上映オルグを「六一・一ダイ改」阻止を闘いぬぐための組織強化の中心にすえて、組合員の総決起で闘いぬいできた。この七月末、「六一・一ダイ改」内容

提案が行われようとしており、五月、七月、各地での映画、物販の圧倒的成功をかちとり、何よりも、映画・物販活動を通して動労千葉の闘いの全国的拡大を切り拓いてきた。今後、この取り組みを通して当局・動労「本部」一体となった組織破壊攻撃を許さない組織体制の一層の強化をかちとらなければならない。

衆参同日選挙の圧勝をもって国鉄国会へ中曽根体制の全体重をかけた攻撃の集中は必至であり、何よりもこの七、八月を原則にたちきり、全力で闘いぬくことが求められている。全力でやりぬくことによって、展望は切り拓かれる。

具体的取り組み

1. 「七・二〇全国鉄労働者集会」への全力結集
七月二〇日（日）十二時～十七時
東京・大手町 農協ホール
2. 物販活動の強化
県内の労組・団体への取り組みの強化と協販部の強化を行う。
3. 全国上映運動の拡大と全国オルグの強化
六月二日東京東部を皮切りに全国九会場での上映会は大坂上映会の八五〇名結集をはじめとした大成功を収めてきた。上映後も申し込みが続ぎ、各地で国鉄労働者の決起と流動化をまきおこしてきた。七月九日、富山から八月末まで長崎・大阪・東京・柏・津・四日市・甲府・木更津・前橋・浦和・秋田・函館・沖縄・福島とスケジュールが続き、全国オルグ体制の強化が求められている。
4. 組織体制の強化
 - (一) 組織総点検行動の展開
 - (二) 県内映画集会の開催
 - (三) 物販活動体制の強化
 - (四) 家族組合の結成・強化
 - (五) 第一〇回労働学校
5. 団体交渉の強化
6. 第十一回定期大会へ向けて、その他

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！